

「新しい方針」の骨子は概ね以下の通りです。

平成28年12月20日に西岡市長が公表した「新しい方針」(要点)

- ① 蛇の目ミシン工場跡地に市庁舎(床面積1万2000㎡)を建設。完成後、第二庁舎は所有者に返却。完成時期は平成34年3月を想定。建設に要する費用は62億9800万円を見込む。
- ② 福祉会館の建設場所は明記しない。福祉会館の完成時期は平成34年2月を想定。福祉会館建設に要する経費は16億5624万9000円を見込む。
- ③ 市庁舎建設基金は、平成29年度、30年度は各1億円、平成31年度、32年度は各3億円を積み立て、32年度末残高を20億円2000万円とする。

この「新しい方針」についての私の見解は以下の通りです。

- ① 引き続き、蛇の目ミシン工場跡地に市役所を建設する方針であること、市役所庁舎完成後、第二庁舎を所有者に返却する方針であること、は私の政策と一致しており、適切であると評価する。
- ② 従来、西岡市長は「蛇の目ミシン工場跡地に福祉会館を建てる」としていたが、建設場所を明記しなくなった。公約を守り、蛇の目ミシン工場跡地に建てるべきである。大災害が起きた場合には、災害対策本部である市庁舎と、災害ボランティア対応をする社会福祉協議会(福祉会館に入居)が同一敷地内にあった方が機能的である。また、平時における建物の維持管理を考えても、別々の場所ではなく同一敷地内にあることでコストダウンが可能になる。
- ③ 市庁舎が平成34年3月完成、福祉会館が平成34年2月完成というスケジュールはあまりに遅すぎる。スケジュール表を見ると、意図的に建設を遅らせようとしている姿勢がうかがえ不可解である。完成を大幅に早めることは十分に可能であり、スケジュールの見直しによる大幅なスピードアップが必要である。
- ④ 西岡市長は、市庁舎の床面積は1万2000㎡を想定しているが、現在の本庁舎は2700㎡で第二庁舎は6000㎡、計8700㎡である。財政にゆとりがないのであるから、床面積の大幅な縮減を図り、また工法も工夫し、徹底したコストダウン庁舎、脱ムダ庁舎にすべきである。
- ⑤ 蛇の目ミシン工場跡地に現存している清掃関連施設(リサイクル事業所等)を当面稼働させたままでも、市役所庁舎や福祉会館の建設は可能である。清掃関連施設の移転は、必ずしも着工の必須条件ではない。

■ 福祉会館の建設場所で割れる市議会 市庁舎建設にまで悪影響が…

西岡市長が、福祉会館の建設場所を白紙に帰し、どこに建てるかを打ち出せなくなったのは、市議会の中で建設場所に関する意見が大きく割れていることが原因だと思われます。私もリベラル保守の会や生活者ネットワーク、緑・市民自治こがねいは、蛇の目ミシン工場跡地への建設が適切だと考えています。蛇の目ミシン工場跡地は市域のちょうど中央に位置していますし、大災害時には市庁舎と福祉会館が同一敷地内にあった方が、お互いの連携がとりやすいからです。一方、公明党や共産党は、現在の第二庁舎北側にある「第二庁舎北駐車場用地+本町暫定庁舎用地」に建設すべきとの考えです。この案は、稲葉前市長が打ち出した案でした。最大会派の自民党は、現時点においては、蛇の目ミシン工場跡地案に一定の理解を示しているようですが、どうも腰が定まっていないように見受けられます。

「第二庁舎北駐車場用地+本町暫定庁舎用地」に隣接する老朽高層マンションは耐震強度不足で、その解消のメドは立っていません。弱者も多く利用する福祉会館の立地としては不適當だと私たちは考えます。

いつまでも市議会の意見がまとまらないのでは、市長も決断ができず、福祉会館の建設が大幅に遅れます。さらには、それに連動して市役所庁舎の建設が遅れることも懸念されます。

私は、福祉会館の建設場所に関しては、市役所建設場所を決めた際のように、「市民1万人意向調査」などの方法を活用して決めていくべきだと考えています。小金井市市民参加条例にも「意向調査」の規定があります。